

株式会社 安川電機

代表者 代表取締役社長 小笠原 浩
創 業 1915年 7月
資 本 金 306億円
売 上 高 3,949億円
従業員数 11,831名
(単独 2,741名)
所 在 地 福岡県北九州市八幡西区黒崎城石 2-1
<https://www.yaskawa.co.jp/>
事業内容 モーションコントロール事業
ロボット事業
システムエンジニアリング事業
その他



こちらの会社は言うまでもなく、100年の歴史を持つ大企業です。その間、本社をここ北九州黒崎から一度も離れることなく、地元の発展と共に成長してこられました。

創業当時は炭坑用電動機を作っておられたそうです。1960年代後半に、理想のモーター工場を作ろうとする中で、自動化には機械だけでなく電気の力が不可欠だと、1969年メカニズムとエレクトロニクスを融合した『**メカトロニクス**』という言葉がここ安川電機で生まれました。1972年一旦は商標登録されたものの、その後『メカトロニクス』という言葉が世間で使われ出したため、登録を破棄されたそうです。

そして、それまでの技術を駆使し、1977年産業用ロボット「MOTOMAN-L10」が開発されました。私たちがお邪魔した“みらい館”のお部屋の壁には、その図面が描かれていましたよ。



エレベーター内にも…
さすがにトイレの壁にはないそうです

広い敷地内には“ロボット村”と名付けられた工場などを見学できる施設があります。

これは100年間お世話になった地元の方々（特に未来を担う子供たち）に見ていただいて、恩返しをしたい、モノづくりに興味をもってもらいたいという“安川電機の想い”からだと、みらい館の岡林館長がお話してくださいました。

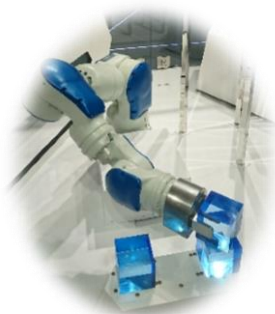


お話をうかがった方々です。右から
生産業務本部生産技術部基盤整備推進課 中村課長
みらい館 岡林館長
ロボット事業部事業企画部営業推進課 奥村課長
味々事業部味々工場生産技術部製造管理課 萩尾課長

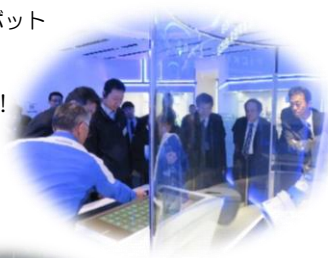
“みらい館”は、最新のロボットを見て体感できる場所です。限られた時間だったため、「もっとゆっくり見たかったなあ〜」という思いが残りましたが、今回視察に参加した経営者の方々も童心に返って楽しんでいらっしゃいました。



テレビのダンスショー
音と映像に合わせてテレビが踊りだしました



人間 VS ロボット
真剣勝負!?
何とか
人間の勝利!



“腕”が自由に動く
7軸のロボットは、壁
や柵の障害物をうまく
すり抜けて、物を取り
移動させます

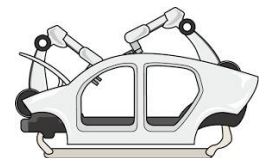


私のお気に入りロボット
女性らしいラインで、ちょっぴりセクシー☆
片手 2 本ずつの指で、器用にルービックキ
ューブを回します

スポイドで、試験管に液体を入れ
たり、ふたをしたり…細かい作業
を行っています

工場はとても綺麗で、ロボットが“働いている”のがとても
不思議な空間でした。今やロボットがロボットを作り、自身の
メンテナンスも行うそうです。なんかすごい世界ですね！

ここでは、テレビで見る自動車の組み立てシーンで働くロボ
ットが作られていました。



ロボット事業は、現在、安川電機グループ総売り上げの36%を占めています。種類も多く
アーク溶接ロボット、スポット溶接ロボット、ハンドリングロボット（3次元画像で位置を認
識し動く）、人協働ロボット、クリーンロボット、塗装ロボット、ピッキングロボット、パレ
タイジングロボット・・・と用途に合わせて様々なロボットが活躍しています。

こちらのロボット工場では、**ロボットによる自動化率が71%!** それによる**省スペース化
61%減!** だそうです。今後、自動化は増々進むと思われ、
次は“人協働ロボット”の活用を見込まれているようです。
もちろん、安全対策はバッチリ!!

かつて見た映画のような光景が、近い将来本当に
やってくるのかもしれませんが。少し怖い気もしま



すが、ますます便利になり、生産性も上がれば『人の働き方』も変わってくるのかもしれませんが。この日の生産目標も順調！時間外勤務はなさそうだとおっしゃっていました。

ですが、まだまだ人にしか出来ないこともたくさんあります。やはり **最後は“人です！”** そこで必要になってくるのが、“人を育てる“ということです。

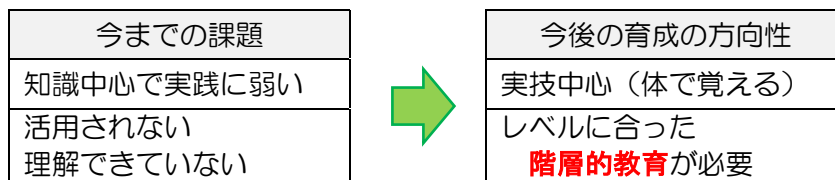
最後に、モノづくりにおける同社の人材育成についてお話をうかがいました。

「自分の子供を育てるのも難しいのに、人様を育てるのはもっと難しい」と前置きの後、「だが『育成』をしていくことで、また次の100年へと会社が存続していくのではないか」ともおっしゃっていました。それぐらい、『育成』は重要なんだと。

こちらでは、社員の**“なりたい自分”への育成ロードをサポートすること**が軸になっているのだそうです。“なりたい自分”があってこそ勉強したり、資格を取ったり、日々精進し、長い会社人生を勤めていけるのではないか。そのためのサポートをするというものでした。



研修・セミナーなどに参加しても・・・



階層別に教育をすることによって、**理解できる ⇒ 自信が持てる ⇒ 興味がわく**

興味がわいてくるとやりがいにもつながりっていくのではないのでしょうか。

そのために、独自の人材育成システムを作られたそうです。それに、個人のスキルを個々に入力（見える化）してもらい、その人に合った資格やセミナーなどを照会（適正化）して、“なりたい自分”へサポートされています。



このように、未来を見据えて社員を大切に育てていらっしゃる大企業さんでした。